

現代アメリカ英語の諸相(2)

田中 芳文・飯島 睦美*

概 要

米国の現代小説や漫画などに見られるが、辞書などでまだ明確にされていない現代アメリカ英語の英語表現について明らかにするとともに、その背景文化について記述した。

キーワード：現代アメリカ英語，現代アメリカ文化，辞書，小説，漫画

I. 序 論

Greg Iles が2000年に発表し、2002年に *Trapped* というタイトル(2003年日本公開時の邦題は『コール』)で映画化されて話題になったベストセラー小説 *24 Hours* のラストシーンでは、誘拐された妻と娘を取り戻すため、麻酔科医が無謀にも自家用飛行機を高速道路に着陸させようとする。

“What are you going to do now?”

“I’m going to land.”

“On the road?”

“Absolutely.”

.....

“When you land,” Cheryl said, “what about the cars and stuff? I mean, there’s *eighteen-wheelers* down there.”

“I’ll try not to hit them.”

— *24 Hours*, pp. 391-392

「つぎはどうするの？」

「着陸する」

「道路に？」

「あたりまえだ」

[中略]

「車が走ってるのに、どうやって降りるの？」

と、シェリルが訊いた。「いま見てるだけで18台あるのに」

「ぶつからないように注意するんだ」

—雨沢 訳, pp. 556-557

例文中の *there’s*, つまり *there is* の後に *eighteen-wheelers* という複数形が続いているが、存在を表わす *there’s* の後に複数形が続くのは会話ではしばしば起こる現象である。¹⁾ 問題はこの後である。訳者は *eighteen-wheelers* の部分を車「18台」と考えてしまった。しかしこれは誤りである。アメリカ英語で *eighteen-wheeler* とは, “a large tractor-trailer, usually having ten wheels on the cab and eight on the trailer”²⁾ のことである。つまりこの場面では、普通車が18台高速道路を走っていたのではなく、大型トレーラーが複数走っていたのである。アメリカ英語の表現を十分調査・研究していない訳者の不手際である。

これまでも多くの機会に、現代アメリカ英語の言語と文化について、より正確でより緻密な情報を書き留めて公にしてきた。^{3), 4)} 本稿では、特に現代小説、ノンフィクション、漫画などからアトランダムに取り上げた8項目のアメリカ英語の表現について、引き続き調査・研究した結果を記述する。

* 国立松江工業高等専門学校一般人文科学科

II. 本 論

1. Barbies, Beatrix Potter bunnies, Beanie Babies

Abby slowed her pace as she moved up the dark hallway. Passing her bedroom, she glanced through the half-open door. Her dolls were arranged against the headboard of her tester bed, just as she'd left them in the morning, Barbies, Beatrix Potter bunnies, and Beanie Babies, all mixed together like a big family. The way she liked them. — 24 Hours, p. 30

アビーは暗い廊下を歩いていき、すこし足どりをゆるめた。自分の寝室を通りすぎながら、半開きのドアから中をのぞいた。天蓋のあるベッドのベッドボードにかわいがっている人形が並べてある。人形たちは、今朝そこに残したままだった。バービー、ベアトリス・ポッターのウサギのぬいぐるみ、ビーニー・ベイビー、それぞれ数種類あり、まざりあって大家族になっていた。そういうふうにならべておくのが、アビーの好みだった。 — 雨沢 訳, p. 49

5歳の少女の部屋に並べられた人形の様子が描かれている場面であるが、この場面を正確に理解するためには、それぞれの人形がどのようなものかを承知しておかなければならない。

Barbies は日本でも有名なバービー人形 Barbie の複数形であるから、この人形が複数あったことになる。この人形には白人のものと黒人のものがあるが、米国 Colorado 州の女子小学生が白人と黒人のバービー人形のどちらがかわいかという実験をし、その結果を発表しようとして人種差別論争に発展したという。⁵⁾ 多くの人種が生活する米国社会ならではの事件であり、この人形にまつわる背景文化として知っておかなければならない事実である。

Beatrix Potter bunnies の Beatrix Potter とは、ピーター・ラビットの童話シリーズの作者として知られる英国の児童文学作家・挿絵画家の名前である。文部科学省検定済教科書・高等学校外国語科用でも取り上げられている。⁶⁾ その作品に

登場するうさぎ (bunny rabbit) の人形が複数あったのである。ただし、訳者が「ベアトリス」としているのは誤りで、「ベアトリクス」が正しい。

さて、最後に登場する Beanie Babies を訳者は「ビーニー・ベイビー」とあえて単数形に訳出している。しかしこの人形の商品名は正確には Beanie Babies と複数形であるから、「ビーニー・ベイビーズ」とするのが適切である。日本でも販売されるようになったこの人形が、米国では投機の対象にもなったという文化的背景についてはすでに指摘したが、この人形の人気の高さを表わしている重要な情報である。⁷⁾

2. cannonball contest



この漫画に登場する cannonball についての辞書の説明には「膝を抱えた飛び込み」⁸⁾ とか「(北米)両腕で膝を胸に押しあてて体を丸めて行うダイブ」⁹⁾ などの説明があるが、cannonball contest について説明する辞書はない。この漫画を理解するためには、その語が米国文化の中で何を意味するのかを明確にしなければならない。この語については次の記述がある。¹⁰⁾

Games — Cannonball Contest

It won't matter the age, every kid loves doing cannonballs. This is just one way to legitimize it. Have the group line up. The goal here is to get the highest splash using a cannonball (you be the judge). The cannonball group lines up behind a diving board, starting blocks, and pool deck and gets as many chances as you like to get into first place. Insure lifeguards and pool management are in agreement with this activity before you commence.

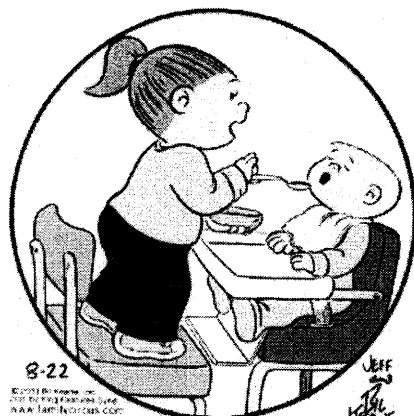
したがって、cannonball contest とは、「両腕で、両膝を抱え胸に押しあてた状態で、プールに飛び込み、一番大きな飛沫をあげたものが勝ちと

なるプールサイドで行われるゲーム」と定義できる。よってこの漫画の中では、少しでも体重を増やし、水しぶきを高く大きくあげようと努力をしているのである。



図1 cannonball contest¹¹⁾

3. chew-chew train



「さあ大きく口を開けて、P J」。チューチュー列車が来ますよ」と弟に食事をとらせる場面である。なかなか離乳食をとらない乳幼児に対してのあやし方はいろいろあろうが、ここに出てくる“here comes the *chew-chew train*”とは、Walt Disney Worldをこよなく愛する子どもたちらしい表現である。実際この *chew-chew train* がどのような乗り物であるかがわからないと、この漫画を理解することはできない。

身長制限のない、乳幼児も乗れるディズニーワールドのアトラクションの一つで、Heimlich's Chew Chew Trainと呼ばれるものである。ミニチュアの線路の上を、芋虫の Heimlich の背中に乗り、実際に臭いがする果物などの間を通り、移動していく。小さい子どもたち人気のあるアトラクションである。

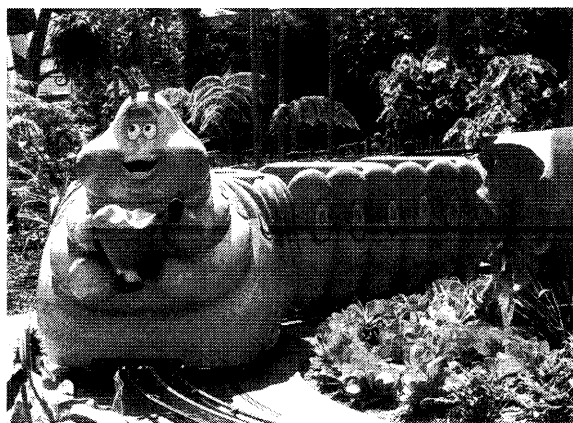


図2 The Heimlich's Chew Chew Train¹²⁾

4. grouch-potato



ここで使われている *grouch-potato* とは、どのような人物を意味しているのであろうか。 *grouch-potato* そのものを収録する辞書はないのでまず *grouch* について考えてみると、自動詞には“to be *bezsulky* or *morose*; show discontent; complain, esp. in an irritable way”の意味があり、名詞には“a *sulky*, *complaining*, or *morose* person”とか“a *sulky*, *irritable*, or *morose* mood”の意味がある。¹³⁾ この定義から判断すれば、 *grouch-potato* の *grouch* とは、「むくれた、機嫌の悪い不満を言う人」と解釈できよう。

次に、 *potato* については、例えば *a hot potato* と言えば、「《誰も処理したがない》不快な〔危険な、扱いにくい〕問題」¹⁴⁾ のように、ほとんどの辞書が「扱いにくい問題」としている。しかし次の記述から、「扱いにくい人物」の意味で

も使われることがわかる。

For example, the drug lord Juan Garcia Abrego, to U.S. justice because he is *a hot potato* with whom, admittedly, we cannot deal in our own courts.¹⁵⁾

What is certain is that he is *a hot potato* in US-Israel relations and Hier is the last person who would want to hold it: he fears to be seen as annoying by the republican big fish, and his inaction would make him hateful to the thousands of fans of the exiled spy.¹⁶⁾

Over and over my step-mother kept saying, "Judy, if your boyfriend doesn't have the decency of being here with you on such an important night then drop him like he is *a hot potato*." Of course, she didn't understand... How could she? How could anyone, I thought.¹⁷⁾

これらの記述から, *potato* は人物について言及する場合にも使用されると考えられる。

最後に, *grouch-potato* が実際にはどのように使われているのか, "Pseudictionary" という日常的に使われ始めた辞書に未収録の語句を掲載しているサイトでは次のように定義されている。

Someone who likes to sit in front of the TV a lot, objecting to things.

e.g., "This is the thing I've been saying," he began, in a *grouch-potatoey* kind of way.¹⁸⁾

つまり, 「何かに不満を持って, テレビの前に座り込むのを好む人」となる。ここで注目したのは, 「テレビの前に」という記述である。

カナダのバンクーバーにある Yes Education System という円滑なコミュニケーション方法を指導する団体のサイトには, 次のような記述がある。¹⁹⁾

7 1/2 ways to get your *grouch potato* off the sofa: A Light-Hearted Approach to dealing

with difficult people with Carla Rieger.

Do you deal with grouchy customers?

Do you feel frustrated trying to work with moody co-workers?

Do family members wear you down?

Do you ever get stuck in negativity and unable to get out?

We all can sometimes get stuck on the "sofa of life" watching Negativity-TV. Life is stressful and even with the best intentions people can act poorly towards one another. Contrary to popular myth, there are ways of turning around the *Grouch Potato* in almost anyone. Discover a practical approach to help yourself and others lighten up at work or home.

During this 1-hour introduction you will learn:

-the most common kinds of *Grouch Potatoes* and how to recognize them

-7 1/2 ways to get that *Grouch* off the sofa

-3 3/4 ways of preventing communication breakdowns

したがって, *grouch-potato* は, ハイフンなしで *grouch potato* と綴られることもあり, 複数形は *grouch potatoes* となる。その定義は, 「陰気なテレビ番組などを見たり, 本を読んだりして, ソファに座り込み, むくれて不機嫌な様子でいる人物」となる。漫画の構図より推測できるように, 必ずしもテレビを見ていることがその定義にはならず, ソファに座り込んでいる状態が *grouch potato* にはお決まりのものであるようだ。

5. If red touches yellow, it can kill a fellow.

They'd seen a coral snake on one camp-out, sunning itself on a rock by the creek. The fathers didn't even try to get close enough to kill it. They said if it bit you, you could die before you got to the hospital. Her dad had taught the Princesses a rhyme to help them tell the difference between a coral snake and a scarlet king snake, which looked almost exactly

like it: *If red touches yellow, it can kill a fellow.*

— *24 Hours*, p. 152

キャンプ中のある日、溪流沿いの岩でひなたぼっこをしているサンゴヘビを見たことがある。父親たちでさえ、退治できるほど近くには絶対近寄ろうとしなかった。もし咬まれたら、病院に到着するまでに死ぬだろうという話だった。アビーのパパがキャンプに参加した女の子たちに、とてもよく似ているサンゴヘビとニセサンゴヘビの違いの見分け方を、歌のようにメロディをつけて教えた。(アカがキイロっぽかったら、ヒトをころすヘビなんだ) と。

— 雨沢 訳, pp. 216-217

猛毒のサンゴヘビとそれによく似たヘビの見分け方を説明している場面であるが、問題はその邦訳にある。訳者は *If red touches yellow* の部分を「アカがキイロっぽかったら」という日本語にしているが、この日本語からは、ヘビの色が真っ赤ではなく黄色がかった赤色であるとしか読めないであろう。これは誤りで、この部分はこのヘビの特徴である赤、黄、黒の縞模様の並び方に言及しているのである。サンゴヘビの場合は赤色と黄色の縞が隣り合わせになっているが、ニセサンゴヘビの場合はそうになっていない。したがって、問題の部分は「アカとキイロが隣り合わせなら」ということになる。

このサンゴヘビの見分け方については、次にあげる別のノンフィクションの中でも取り上げられていて、米国文化を学ぶための英語教材にもなっている。²⁰⁾ *Red on yellow* の部分は、*on* の基本的な意味が「接触」であることを考えれば明らかである。

Texans, a crafty lot, have developed a little rhyme concerning these bands of color to help them distinguish the poisonous snake from the harmless one.

Red on yellow, kill a fellow.

Red on black, venom lack.

— *Emergency*, p. 50

6. interrogation room と interview room

Special Agent Bill Chalmers thanked a black homicide detective named Washington and closed the door of police *interrogation room*.

— *24 Hours*, p. 213

特別捜査官ビル・チャルマーズはワシントンという黒人の殺人課刑事に礼を言い、警察の尋問室のドアをしめた。 — 雨沢 訳, p.304

この例文から、警察署内の取調室を *interrogation room* と呼ぶことがわかる。作家 Arthur Hailey は、その徹底した取材をもとに *Wheels* (『自動車』), *Airport* (『大空港』), *Hotel* (『ホテル』) などの作品を発表したが、警察の組織、捜査システム、捜査員の日常生活などを克明に描写した作品の中で、この *interrogation room* についての重要な情報を提供している。

After the routine processing, Jensen, still handcuffed, was taken in an elevator up several floors to Homicide. There he was escorted to an *interrogation room* — nowadays, in official “soft-speak,” referred to as an *interview room*.

— *Detective*, p. 525

所定の手続きが終わると、ジェンセンは手錠をかけられたままエレベーターで数階上の殺人課へ連れて行かれた。そこで、婉曲に面談室と呼ばれているが、実体は取調室である部屋に入れられた。 — 永井 訳, p. 408

特に婉曲語法 (euphemism) で、*interrogation room* のことを *interview room* と呼ぶということは、警察用語を収録する特殊辞典には収録すべき情報である。

7. muffaletta (sandwich)

Hickey sat at Karen’s kitchen table, eating a huge *muffaletta sandwich* and drinking iced tea.

“Damn, that’s good,” he said, wiping his mouth. “You got the dressing just right. Reminds me of New Orleans. That grocery

store down in the Quarter.”

.....

Hickey slapped her lightly on the behind, exactly the way Will would have. “Let’s get back inside. My *muffaletta*’s getting cold.”

— 24 Hours, pp. 69-74

ヒッキーはキッチンに腰をおろし、大きなロールパンにサラミ、チーズ、オリーブをはさんだムファレッタ・サンドイッチをぱくつき、アイステイーを飲んでいた。

「くそ、うまいじゃないか」彼は口をぬぐって言った。「ソースの味がちょうどいいぜ。ニューオーリンズを思い出すよ。あのフレンチクオーターの食料品屋をな」

[中略]

ヒッキーがかかる背中を叩いた。ウィルがするようなやり方だった。「家にもどろう。せっかくのムファレッタが冷えちゃう」

— 雨沢 訳, pp. 102-109

この場面に登場する *muffaletta* というサンドイッチについて、英和辞典は、「[米方] 大きいロールパンにサラミ・チーズ・オリーブサラダなどはさんだサンドイッチ」²¹⁾ とか「ムーフレッタ (米国 New Orleans のサンドイッチ; 丸いイタリアンブレッドにサラミ・ハム・オリーブやイタリアチーズなどはさむ)」²²⁾ と解説する。

まず問題となるのは綴りである。これらの英和辞典はいずれも *muffaletta* の綴りで収録しているが、例文にあるように *muffaletta* の綴りもあることを記述しておく必要がある。²³⁾

また、サンドイッチの呼称を考える場合は、パンは何枚重ねるのか (layer), 調理方法, サイズ/形, パンの種類, 挟む材料 (filling), パンに塗るもの (lubricator) などの視点が重要である。²⁴⁾ 例えば「ロールパン」ではその形について誤解を招く危険性がある。あるいは、パンやチーズについては「イタリアンブレッド」や「イタリアチーズ」という解説がある反面、例えばサラミについては「モルタデラサラミ」(mortadella salami) などが使われるという情報が不足している。²⁵⁾

8. Seinfeld

“Then you don’t know. Every time I see a hooker in a movie, I want to throw something at the screen. When I saw *Pretty Woman*, I wanted to puke. You know the part in that movie when Richard Gere’s friend tries to make Julia Roberts do him? The guy from *Seinfeld*? It’s like the only uncomfortable part of that whole movie.”

— 24 Hours, p. 117

「じゃ、わからないね。映画に出てくる娼婦を見るといつも、スクリーンになにか投げたくなったわ。『プリティ・ウーマン』を観たとき、げろを吐きたくなったもの。リチャード・ギアの友だちが、ジュリア・ロバーツにさせようとした場面って知ってる？セinfeldから来た男よ。あの映画全体で不愉快な場面はあそこだけだっていわんばかり」

— 雨沢 訳, p. 169

この場面の邦訳にある「セinfeldから来た男」を普通に読めば「セinfeld」という土地からやって来た男と考えてしまうのではないか。しかしこれは全くの誤訳である。原文では、映画のタイトル *Pretty Woman* と *Seinfeld* の両方がイタリック体で書かれている。つまり、*Seinfeld* は映画などのタイトルだと考えなければならぬ。

Seinfeld とは映画ではなくテレビ番組のタイトルである。1990年5月31日から1998年9月10日まで米国NBCテレビ系で放映された連続コメディ (situation comedy) である。²⁶⁾ 米国のテレビ番組の50年を振り返る中でも取り上げられるほど有名な番組である。²⁷⁾ この部分の邦訳は「『セinfeld』に出演していたあの男」とならなければならないのである。ちなみに、*Pretty Woman* (1990) と *Seinfeld* の両方に出演していた男とは、1959年9月23日 New Jersey 州 Newark 生まれで本名が Jay Scott Greenspan の俳優 Jason Alexander のことであると考えられる。²⁸⁾

次の場面にはこのテレビ番組名と *The Honeyymooners* というコメディ番組が登場するが、後者は英和辞典に収録されているので、²⁹⁾ *Seinfeld* の方も収録すべきである。

She lay in bed watching TV throughout her labor and estimated the time of birth for him as “somewhere between *The Honeymooners* and *Seinfeld*.”
— *Into the Breach*, p. 251



図3 *Seinfeld* の一場面
(左端が Jason Alexander)³⁰⁾

Ⅲ. 結 論

米国の現代小説や漫画に現われるアメリカ英語の表現を8項目取り上げて、それらを理解するためには、辞書や翻訳などで明らかにされていない情報や文化的背景についての調査・研究が必要であることを指摘した。今後の言語と文化的視点を取り入れた英和辞典の執筆編集にとっても重要な基礎研究となった。

[注]

本稿で使用したテキストは次のものである。

[]内は本稿で使用した略記。

Brown, Mark: *Emergency! True Stories from the Nation's ERs*. Villard, 1996. [*Emergency*]
Hailey, Arthur: *Detective*. Berkley, 1998. (永井淳訳, 『殺人課刑事』新潮社, 1998) [*Detective*]
Iles, Greg: *24 Hours*. Signet, 2000. (雨沢泰訳, 『24時間』講談社, 2001) [*24 Hours*]
Karam, J. A.: *Into the Breach: A Year of Life and Death with EMS*. St. Martin's Press, 2002. [*Into the Breach*]

参 考 文 献

- 1) Biber, Douglas et al.: *Longman Grammar of Spoken and Written English*, Longman, 1999.
- 2) *Random House Webster's Unabridged Dictionary*, Second edition, Random House, 2001.
- 3) 山田政美, 田中芳文: 現代アメリカ英語文化研究辞典, 英語の言語と文化研究会, 2003.
- 4) 田中芳文, 飯島睦美: 現代アメリカ英語の諸相(1), 松江工業高等専門学校紀要(人文・社会編), (39), 54-59, 2004.
- 5) 「バービー実験人種差別論争」, 読賣新聞, 2001年2月22日(木)付.
- 6) *VISTA English Series I. New edition*. 三省堂. 2003.
- 7) 前掲書3)
- 8) *リーダーズ英和辞典*, 第2版, 研究社, 1999.
- 9) *ウィズダム英和辞典*, 三省堂, 2003.
- 10) <http://www.grassrootsswimmingl.com>
- 11) <http://www.chefeddy.com.cannonball>
- 12) <http://www.mousinfo.com/california-adventure/goldenstate/bugsland/attractions/heimlichs>
- 13) *Webster's Third New International Dictionary of the English Language*, G. & C. Merriam, 1961.
- 14) 前掲書8)
- 15) <http://www.azteca.net/aztec/immigrat/carlos.html>
- 16) http://www.olavodecarvalho.org/english/articles/030315globo_en.html
- 17) <http://www.remmick.org/LodiUHSClass60/Page21.html>
- 18) <http://www.pseudodictionary.com>
- 19) <http://www.yeseducationsystems.com/events.html>
- 20) 田中芳文: 救急救命センター24時, マクミランランゲージハウス, 2003.
- 21) *グランドコンサイス英和辞典*, 三省堂, 2001.
- 22) *研究社新英和大辞典*, 第6版, 研究社, 2002.
- 23) John F. Mariani: *The Encyclopedia of*

- American Food & Drink. Lebhar-Friedman Books, 1999.
- 24) 山田政美：アメリカ英語の最新情報，研究社出版，1986.
 - 25) 前掲書 23)
 - 26) Tim Brooks, Earle Marsh: The Complete Directory to Prime Time Network and Cable TV Shows 1946-Present, Seventh edition, Ballantine, 1999.
 - 27) TV Guide: Fifty Years of Television, Crown Publishers, 2002.
 - 28) Leonard Maltin: Leonard Maltin's Movie & Video Guide, 2004 edition, Signet, 2003.
 - 29) リーダーズ・プラス，縮刷版，研究社，2000.
 - 30) 前掲書 27) (p. 235)

Aspects of Present-Day American English (2)

Yoshifumi TANAKA and Mutsumi IJIMA*

Abstract

Readers, whose mother tongues are not English, can be confronted with unfamiliar English expressions in a story or a comic strip that often pertain to real life and culture. A quick check of a dictionary often reveals nothing, or if anything, a definition which is inappropriate for an understanding of the situation in which the expression is used. Readers should have knowledge of the culture and society in which a novel or comic has been written to thoroughly understand the context. This paper consists of a collection of expressions appearing in American novels and comics, and illustrates their meanings with examples adopted from a real life context.

Key Words and Phrases : American English, American culture, dictionary, novel, comic

*Matsue National College of Technology